

十島村教育委員会だより 令和5年11月号

さわやかたカラ情報

南北160km
「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

【新型コロナ以前に戻った文化祭・学習発表会!】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

(1) 地域が育む「かごしまの教育」県民週間
毎年恒例となっています地域が育む「かごしまの教育」県民週間が、今年も11月1日から7日に実施されました。この時期に合わせて、前後1週間以内に、どの島でも文化祭や学習発表会が実施されました。新型コロナの3年間は、ほぼ学校独自の行事でしたが、今年はその以前に戻り、運動会同様、多くの島民の方々に参加していただき、盛大に開催されたようです。

児童・生徒の作品はもちろん、島民の方々が丹精込めて製作された様々な作品も並び、多くの方が堪能されたようです。また、舞台発表では児童・生徒の演奏や演技等、練習の成果を十分に出し切り、大きな拍手をいただいたようです。教職員も楽器の演奏や歌唱なども披露したようです。ALTもピアノ伴奏などで活躍してくれました。

新型コロナが収まり、学校を中心とした島全体での文化的な賑わいが戻ってきたことが、非常に喜ばしいことだと思います。これからもうしばらく『文化』に親しまれてみませんか。

(2) 「感動は心の扉を開く」～ 感動で扉開くような「秋」を! ～
これは、椋嶋十さんの言葉です。出身は長野県。児童文学者でありながら鹿児島県立図書館長や鹿児島女子短期大学教授を歴任され、鹿児島と深い縁を結んでくださった方です。鹿児島県が他の都道府県に先駆けて「親子20分読書」運動に取り組むきっかけをつくられるなど、親子読書による心豊かな人間育成を提唱されました。『母と子の20分間読書』や『感動は心の扉を開く』という本は1988(昭和63)年出版以来、超ロングセラーです。
小さい頃から父親に連れられ山々へ行っては、動物たちの様子をよく観察されたようです。動物を主人公にした著書が多いのもうなづけます。「片耳の大シカ」「(犬の)マヤの一生」「(人間に飼われていたサルが)山へ帰る」「大造じいさんとガン」という物語は、動物と人間との心の通い合いが伝わってくる名作です。〈セブンアイランド移動図書館〉や〈県立図書館〉の図書も、各学校やコミセンに届いていると思います。1冊でも本を手にとり、秋の夜長を楽しんでみてはいかがでしょうか。



【出版：あすなろ書房】

地域が育む「かごしまの教育」県民週間



口之島 文化祭



中之島 作文発表会



諏訪之瀬島 給食フェスタ



平島 平島太鼓



悉石島 学習発表会



小宝島 文化祭 劇



宝島 文化祭

島民の皆様や山海留学生の保護者などたくさんの方に学校参観をしていただきました。

【新聞に投稿】※学年は投稿時

令和5年10月20日 南日本新聞「若い目」掲載

トカラマラソン大会の九月三十日がやってきました。十島の村の口之島から宝島まで七つの島をフェリーでめぐってしりごり、ゴールめざす大会だ。今年もたくさんの方がが参観してくれたい。そのために休日には、長いきよきははしるれんしゅうををしたいと思っ

トカラマラソン 悪石島小二年 さか元はると



入賞おめでとう

第71回学校新聞コンクール
第3席 宝島小中学校「メイメイ」
佳作 口之島小中学校「タモトユリ」

十島村で学ぶ

【笑顔あふれる小宝島小・中学校】5年 東 和心

私は小宝島に三年前にやってきました。初めての島にやってきたとき、海の青さと透明度に息をのみました。小宝島小・中学校は今までの大規模校とは違って、小さな校庭の芝生の鮮やかな緑が印象的でした。みんなが初日から遊びに誘ってくれて、すぐに打ち解けることができました。

二年目に入り、児童生徒数は十二名から八名になり、少しばしくなりました。けれど担任の先生とマンツーマンの授業がとても楽しくて休み時間には、となりの五・六年生教室に遊びに行き、少ない人数だけれど充実した毎日を送ることができました。

三年目になり、小・中学生を受け入れる寮ができました。児童生徒数は、八名から十五名に増え、久しぶりの同級生、下級生、たくさんの上級生ができました。五年生になり集合学習がありました。今まではテレビ会議でしか会えなかった友達と会うことができ、こんな人だったんだと知ることができました。

振り返ると、私はこの小宝島小・中学校は笑顔あふれる学校だと思っています。なぜなら一日一回は笑うし、楽しい笑い声が聞こえるからです。学校が終わると「ああ、楽しかった。」と思います。みんなに会いたい。また笑いたい。一緒に勉強したいと思う学校。小宝島小・中学校は、そんな笑顔あふれる学校です。

【小宝島小・中学校からのメッセージ】 教諭 井上佳昭

小宝島に赴任して1年7か月が経ちました。小宝島の青く澄んだ海の美しさ、子どもたちの明るい笑顔、そして地域の方々の優しさに包まれて、あっという間に月日が過ぎたように感じています。小宝島での生活は、私にとって初めての経験が多く、毎日がとても新鮮です。

まずは、小宝島小・中学校での勤務です。初めての小中併設校での勤務で、中学生だけでなく小学生もいる校内は活気もあり、かわいらしい小学生の姿と優しい中学生の姿に心を和ませてもらっています。今年度は中学1・2年生の担任をしており、7名のうち6名が県外からの山海留学生です。それぞれの文化や方言などを教えてもらうことができ、子どもたちから学ぶこともたくさんあります。また、小学校の先生方と行事や授業を一緒に企画したり、意見交換したりすると、初めて学ぶことも多く、多くのことに気づけるチャンスとなっています。

9月には秋季大運動会、10月には文化祭を小・中学校・地域が一体となって実施することができました。子どもたちの成長を地域の方々が温かく見守り、励ましてくださる環境はこの島の宝だと改めて感じました。

仕事だけでなく、赴任して始めた釣りも立派な趣味となりました(笑)。釣りのやり方、トビウオ漁や船釣り、魚のさばき方まで丁寧に教えていただき、地域の方への感謝の気持ちでいっぱいです。これからもこの出会いと、感謝の気持ちを大切にしながら、小宝島での生活を楽しくしていきたいです。

『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

今年もあとわずかとなりました。健康第一で、良い年を迎えられるように頑張っていきたいと思います!

スポーツ・レクリエーションで 健康づくり 仲間づくり

11月から県レクリエーション協会の指導員を講師に招いて、日常生活でできる運動やニュースポーツの体験会が始まりました。

各島で1回の開催を予定しています。「トカラいまカラダ健康貯金」の対象事業となります。

